

ならじよ  
奈良女子大学通信

# today

vol.  
33  
October  
2019

特集 梅津理恵先生 座談会  
猿橋賞受賞  
奈良女時代からの積み重ねが結果に



ととせ ももとせ とこしへに 奈良女子大学は創立百十周年を迎えました。



梅津 理恵 先生

梅津 理恵(うめつ りえ)先生  
宮城県出身。奈良女子大学理学部物理学科、同大学院理学研究科物理学専攻を経て、東北大学大学院工学研究科材料物性学専攻修了。専門は金属磁性、固体物性。現在、東北大学金属材料研究所に所属。「ハーフメタルをはじめとするホイスラー型機能性磁気材料の物性研究」により第39回猿橋賞を受賞。



宮林 謙吉 教授

宮林 謙吉(みやばやし けんきち)先生  
奈良女子大学理学部数物科学科教授、博士(理学)。専門は高エネルギー加速器を用いた素粒子実験。主な授業担当は、「微分積分学演習1」「統計学」。「物理学特別実験1-2」。体育会ソフトテニス部顧問。



理学部数物科学科3回生  
柴田 実桜(しばた みお)さん

理学部数物科学科2回生  
土井 華奈子(どいかな)さん

大学院博士前期課程数物科学専攻2回生  
藤井 美保(ふじい みほ)さん



理学部数物科学科2回生  
小俣 亜紀(おだわら あき)さん



理学部数物科学科4回生  
内田 茉友子(うちだ まゆこ)さん

# 梅津理恵先生 座談会 猿橋賞受賞 奈良女時代からの積み重ね が結果に

2019年5月25日、本学出身の梅津理恵先生(1992年理学部卒、1994年理学研究科修了)が、優れた女性科学者に贈られる賞・猿橋賞を授与されました。今回はこれを記念し、梅津先生をお招きして、現在本学で主に物理学を専攻している学生5人との座談会を行いました。理学部教授の宮林謙吉先生に司会をしていただき、理学部での学び、女性研究者のライフスタイルなどについて語り合う、大いに盛り上がる会となりました。

猿橋賞(さるはししょう)とは「女性科学者に明るい未来をのぞく」が贈呈する賞。女性であるという理由から評価されない女性科学者の未来に光を当てることをねらいに、1980年に発足。顕著な研究成果を収める自然科学分野の女性科学者に毎年贈られている。

(以後、名称の表記は、梅津理恵先生・梅津 宮林謙吉先生・宮林、学生はそれぞれの名義)

## 数学や理科への興味 きっかけは

**宮林** 皆さんが算数・数学や理科について、興味を持ったり、好きになったりしたきっかけについて教えてください。

**小俣** 私は、保育園のときに科学館で初めてプラネタリウムを見てから、プラネタリウムに夢中になってしまい、親に頼んで毎週連れていってもらっていました。そのときから、科学館や科学イベントによく行くようになり、理科に興味を持つようになりました。

**土井** 私は、小さい頃、バランスをとることに興味を持ち、積み木を積み上げたり、食べ物を落としてその様子を見ていたりなど、ひとり遊びで理科を楽しんでいました。また、中学校のときにメビウスの輪について数学の授業で習ったのをきっかけに、数学にも興味がわきました。

**宮林** 数物科学科へ毎年2、3人くらいです。近くの奈良高専からだけでなく、いろいろなところから学生がやってきます。

**藤井** 私は、もともとプラネタリウムや星空観察が好きだったんです。誕生日プレゼントもいつも宇宙の図鑑をリクエストしていました。数学というよりは理科が好きで理学部に入りましたね。

**梅津** 私も小学校のときから理科は好きでした。図鑑の中に自分でもできそうな実験があると、とりあえずチャレンジしていました。親も理解があつて、顕微鏡や双眼鏡を買ってくれたんです。でも、数学や理科よりも好きだったのは体育。高校1年生まではずっと体育学科志望でした。結局、当時の部活動の成績では体育学科の推薦をもらうのは厳しいだろうということ、体育は趣味にとどめることになりましたが……。そこで進路を考えたときに、体育のほかには物理が好きだったので、理学部に行きたいと思うようになりました。

## 受験勉強、試験、大学での勉強

**宮林** 皆さんが受験勉強をしていたとき、モチベーションはどうやって維持していましたか？ また、苦手科目はどのように勉強していましたでしょうか。

**小俣** 私は、実は物理が一番苦手でした。でも、分からないからこそ究めたいという気持ちでモチベーションにつながりましたね。

**土井** 私は、苦手科目をどうしたらいいか、勉強方法はどうしたらいいかと聞かれたら、「まずは分からないところを探すことから始めよう」と言っています。

**柴田** 私は、高校の物理の授業で、「内容が

目次

- 02 特集 梅津理恵先生 座談会  
猿橋賞受賞  
奈良女時代からの積み重ねが結果に
- 06 Introduction to Master's Studies
- 10 Broaden Your Horizons!
- 13 Club / Circle # NWU
- 14 佐保会各支部リレー便り
- 15 なでしこ基金・Campus Topics
- 16 あの頃の奈良女へタイムスリップ!!  
= 本学自慢の名物教授 第3回 丹羽雅子編 =

**柴田** 私は、それほど理科に興味があつたわけはありません。ただ、鳥の図鑑を作つてみたり、セミの羽化を観察して自由研究にしたりなど、観察してまとめることは昔から好きでした。あと、ナンブレやグラフィートなど、ゲーム感覚でできる数学はおもしろいと思えましたね。

**内田** 私は、高専からの3年次編入学で、金属について学びたくて奈良女に入りました。高専時代から金属の研究をしていましたが、もつと金属について究めたいと思って編入先を調べたら、奈良女に辿り着いたので、金属を調べたいと見ると見たい目があるように思えないのですが、その種類が違うと特質も違ってきます。学び始めたら難しくてもその分興味深くて、もつと勉強したいと思いました。

**梅津** 高専から奈良女への編入は多いのですか。

きちんと理解できると物理はおもしろいと実感しました。すると、もつと物理について知りたいという気持ちが出てくる。この気持ちでモチベーションになりました。

**内田** 私は、編入試験を受けたのですが、「大学生になったらあんなことやこんなことがしたい」と考えることがやる気になりました。

**藤井** 私は、苦手科目と言えば数学でした。問題を解いて覚えようとするのではなく、「何でこうなるんだろう」という興味を持って勉強すべきだったと今になって思います。苦手だから時間を割くべきだったのに、苦手だから避けていた、という面もありました。

**土井** 私は、英語が苦手、本当にやりたくありませんでした(笑)。だから、化学英語、物理という感じで、好きな科目でサンドして勉強していました。あとは、同じ部活動の友達としゃべって、勉強のアドバイスや励ましの言葉をもらってモチベーションにしています。

**柴田** 友達が存在って大きいと思います。問題が分からなくて人に質問しているうち、いつの間にか分かるようになっていたり、逆に人に教えていて「そこは違うんじゃないか？」と言われて自分の間違いに気づいたり。理系科目はこういう過程が大事だと思います。それに、友達と話すのは楽しかったです。今でも試験前は、友達がいないと乗り越えられませんが(笑)。

**梅津** 私は、高校3年生の夏休みあたりから学校で勉強していました。塾ではなく学校で勉強したい派だったので、そういう友達何人かと一緒に、勉強の仕方でも集中できる時間をもたせてくださる。皆に個性があつたので影響を受けました。



梅津 僕は、なかなか集中力が続かないタイプなんです。……  
 梅津 社会に出てからもそうだけど、研究をする上ではいろいろなタイプの人が必要。自分には集中力が無いと思っても、他に良いところがあるはずですよ。  
 柴田 勉強する内容にもよりますよね。「おもしろい」って純粹に思える科目もあれば、聞くだけで精一杯の科目もありますし、そんな科目にはなかなか手が伸びません。  
 宮林 すべての科目が最初からすらすらでできる人はいないでしょう。一つでいいから、何か「分かった！」という経験が必要かもしれないですね。小さな勝ちを収めていくっていい感じですかね。  
 梅津 大学の勉強って、分からないことはわかりやすい。私の場合は、研究室に入ってから勉強が楽しかったですね。研究室の分属希望は、材料物理学の研究室に早々に申し出ました。そうしたら、その研究室の先生に呼び出されて、「なぜここを選んだのか」と聞かれました。「大学入学後はテニス一筋だったので、最後はちゃんと物理っぽいことがしたかった」と答えたら、「このことを「おもしろい学生がいる」と大学のニュースレターに書かれてしまいました(笑)。また、実験系のところに行きたかったというのがありますね。きついらしいとは聞いていたのですが、自分でいろいろ計画を立ててはいけなかったところが逆に向いていると思えました。そして実際にやってみたら、すごくおもしろかったです。」  
 宮林 勉強以外でやっておいてよかったことはありますか？  
 梅津 部活動で、テニスをしていました。部活動で培った体力は宝物です。結婚して子どもを産んでからも研究を続けていられるのは、この体力のおかげかもしれません。それから、アルバイトをしていて、そこで、大学や研究という分野から離れた人たちと話すのは、自分を見つめ直せるいい機会でした。

は、この体力のおかげかもしれません。それから、アルバイトをしていて、そこで、大学や研究という分野から離れた人たちと話すのは、自分を見つめ直せるいい機会でした。  
 宮林 働く女性と結婚・出産・育児の関係についてはどうお考えですか？  
 梅津 今の男性は、結婚しても女性には仕事を続けてほしいという考えの人が多いです。女性が稼ぎ頭として働き、男性が家で家事や育児を担うという場合もあるでしょう。現在はいろいろな家族の形があるし、それを認めることは大切だと思います。そうでないと、私は研究を続けられない

### 女性のライフイベントと研究

では調べる日々でした。そうして10年から15年経ち、JST(国立研究開発法人科学技術振興機構)からまとまった研究経費を頂いたというもあり、もう少し踏み込んだ研究をしようということになりました。そんなときに、奈良女時代に自分が単結晶を作った経験していたことを思い出しました。単結晶とはその塊全体において結晶が同じ向きに綺麗に並んでいるものです。基礎物性をちゃんと突き詰めようと思ったら、単結晶試料をつくって特性を調べないといけません。ここからは、奈良女時代を思い出してまた単結晶をつくるようになりました。この研究が進むにつれ、実験の難度はより上がり、計測の面で協力が必要になりました。そこで、「良い単結晶ができた」という売り込みに力を入れたところ、大阪大学基礎工学部の計測グループに興味を持っていただき、実験に協力してもらえらるようになったんです。さらに、理論分野の人ともタイプアップしたことで、論文もいっぺん執筆できました。これらの活動が評価されたのだと思います。こう振り返ると、奈良女時代からの経験の蓄積が、今回の猿橋賞受賞につながったのだと実感します。

かいないので、のびのびとした気持ちでいられます。また、奈良女には、将来活躍したいという女子学生がたくさんいて、私の中でも意識が変わりました。  
 土井 私も共学出身です。やっぱり女子大に進むのは迷っていましたが、実際に入ってみると、奈良女は年齢の垣根があまり感じられず、年上の人も気軽に仲良くなれました。また、他の人と関わりを持つのが好きな人が多いので、仲良くやっていけています。  
 梅津 私が博士課程で在籍していた東北大学の研究室では、女子は私一人、先生もとても気を遣っていたみたいでした。だんだん慣れてきて、私も先生に怒られるようになったときは「やっとな怒ってくれた！」と思いたね。  
 宮林 友人、先生とのかかわりでプラスに働いたことはありましたか？  
 梅津 研究室に所属し、指導教官に密に指導を受ける機会が増えたのは良かったです。また、奈良女時代の先輩とは、今になっても学会等で会う機会があります。  
 内田 奈良女は、気軽に質問に行けるなど、先生と学生の距離が近いと思います。他の大学の人が言ったら「そんなことはうちではありえないよ」と言われました。  
 小儀 女子大だから人数が少ないというのも、そういった利点につながっていますよね。

### 今の専攻 選んだ理由は

宮林 現在の専攻を選んだきっかけは何ですか？  
 梅津 実験中心で、自分のペースでやっていけそうという理由からです。東北大に進学するときは、私の中では、出産が大きなイベントでした。子どもが生まれてからは研究に時間が割けないな、と葛藤していた時期もありました。幸い異動もなく、義母も協力的な人だったので、子育てで大変な時期もありましたが研究は続けられました。  
 「欲張り」になって栄光につけ  
 宮林 梅津先生から、高校生や大学生に覚えておいてほしいことはありますか？  
 梅津 材料についていう分野があるということですかね。実はいろいろなニーズがあるんですよ。って、それから、今後の人生で選択を迫られて悩むこともあるかもしれないけれど、迷ったときは好きなことをやってほしい。でも、あわよくば両方やってやろう、くらいの欲張りな気持ちも持ってほしいな。  
 宮林 では、この座談会を通して抱いた希望や目標はありますか？  
 藤井 自分の研究分野以外の人と話すことも大事だなと思いました。今後は自分のレベル以上の目標を持って、たくさんチャレンジしていきたいです。  
 内田 これからの人生で選択を迫られることもあると思いますが、今日の先生のお言葉を胸に、後悔のない人生を送りたいです。  
 柴田 先生のように、奈良女から目標とした先輩が出てくるということはとても心強いです。欲張っているいろいろな挑戦して、人に自分の分野を勧められるくらいに究めたいです。  
 土井 いろいろな話を聞いていると、興味が広がって、迷ってしまいます。でも、先生もたくさん迷われたとのこと、私も存分に迷って、悔いのないようにしたいです。  
 小儀 私はけっこう慎重に考えてしまうた

### 学生記者の声



同郷、かつ奈良女の先輩として、梅津先生の受賞のニュースはたいへん誇らしかったので、今回取材できて光栄です。読者の方には、奈良女という環境で理学を学ぶことに、少しでもわくわくしていただけたらと思います。

竹内明日香(たけうち あすか)  
 文学部人文社会科学科3年生  
 出身校:宮城県仙台第二高等学校

座談会を振り返って  
 本学の理学部には、友人たちと励まし合いながら学ぶ空気が醸し出されていて、数学、物理、材料工学など日本ではまだ女性が少数である学問分野でも、女子学生たちがのびのびと科学者・技術者の卵としての力をつけていく場になっていることが、梅津先生と学生たちの言葉から伝わってくる会話が弾んだひとときでした。海外、特にイタリヤやフランスでは理系分野ですでに広い年齢層で多数の女性研究者が活躍しており、男性が理工系に向いていると限定するのは誤った見解であるとの考えが世界標準と言えます。



文武両道でテニスにも打ち込まれていた大学時代

は、この体力のおかげかもしれません。それから、アルバイトをしていて、そこで、大学や研究という分野から離れた人たちと話すのは、自分を見つめ直せるいい機会でした。

### 奈良女という環境で

宮林 本学のように、女性が集まる環境についてどう思いますか？  
 梅津 私は、女子高から女子大に来たので違和感はまったくありませんでした。女子高は楽しいと思っていたし、女子大を選ぶことにも抵抗はありませんでした。共学の高校から来た人はどんな思いでしたか？  
 藤井 私は、共学出身です。入学前は女子ばかりという環境のイメージがつかめず、悩んでいました。でも、他の大学だと、物理専攻の女子は1割くらいしかいないこともあるのに、奈良女は周りが全員女子。机を囲んで皆でわいわい勉強するのが楽しいです。今は、女子大で良かったと思えます。  
 内田 私は高専で、周りのほとんどが男子で、今とは逆の環境でした。男子の方が多いと、気持ちの面で遠慮してしまっていて、発言する女子も少なかった印象でした。今は女子

かいないので、のびのびとした気持ちでいられます。また、奈良女には、将来活躍したいという女子学生がたくさんいて、私の中でも意識が変わりました。  
 土井 私も共学出身です。やっぱり女子大に進むのは迷っていましたが、実際に入ってみると、奈良女は年齢の垣根があまり感じられず、年上の人も気軽に仲良くなれました。また、他の人と関わりを持つのが好きな人が多いので、仲良くやっていけています。  
 梅津 私が博士課程で在籍していた東北大学の研究室では、女子は私一人、先生もとても気を遣っていたみたいでした。だんだん慣れてきて、私も先生に怒られるようになったときは「やっとな怒ってくれた！」と思いたね。  
 宮林 友人、先生とのかかわりでプラスに働いたことはありましたか？  
 梅津 研究室に所属し、指導教官に密に指導を受ける機会が増えたのは良かったです。また、奈良女時代の先輩とは、今になっても学会等で会う機会があります。  
 内田 奈良女は、気軽に質問に行けるなど、先生と学生の距離が近いと思います。他の大学の人が言ったら「そんなことはうちではありえないよ」と言われました。  
 小儀 女子大だから人数が少ないというのも、そういった利点につながっていますよね。

### 猿橋賞 受賞の決め手は

宮林 それでは今回、梅津先生が猿橋賞で評

大学院へ  
ようこそ!

## 人間科学専攻



文学部  
人間科学科  
教授

西村 拓生

にしまら たくお



う志をもった学生さんに来てほしいと思つています。その一方で、矛盾したことを言うようですが、心理職に就いたり教師になったりといった、大学院での専門的な学びを活かして何かの役に立つ仕事に就くために学ぶ、というわけではなく、純粹に学びたいから大学院に進学する、という人にも来てほしいと考えています。人間であること、人間になることについて学ぶことが何の「役に立つ」のか、ということはある程度、人間に「とにかく人間に興味があつて、人間のことを考えたいから、人間が気になるから、大学院で学ぶ」という人にも進学してもらいたいのです。将来何の

役に立つのか、ということをあえて問わずに学ぶということも実は大切で、人間が生きる上で、より広く深い意味で「役に立つ」ことだろうと思ひます。



**Q** 人間科学専攻のカリキュラムについて教えてください。

大学院での学びと学部での学びの違いは、大学院では、より自分の指導教員の研究に近いところで学ぶということです。そういう意味では学部以上に、どのような研究をしている先生が在籍しているのか、ということがその大学院の特色に直結します。大学院では指導教員である一人の先生に付いて、その先生の方法を学びます。カリキュラムとしては、それぞれの先生が自分の専門の研究領域に関して、特論と演習という授業を立てます。特論は、先生が自分の研究の最先端の成果を語る授業です。演習では、一人ひとりの学生が先生に就いて自ら研究を実践することを通じて学びます。それに加えて、修士論文を書くための演習指導も行っています。新しい知識を学ぶことも大切ですが、大学院の授業では先生が一体どのような方法で研究しているのか、授業を通して学んでもらうことを大切にしています。人間科学専攻の先生は多様な方法論で研究しているため、研究のアプローチが多様な方法論で「人間」にアプローチするからこそ、ここでの学問研究は幅

**Q** 人間科学専攻の特色とは何でしょうか？

学部と大学院の関係にはいくつかのバリエーションがありますが、奈良女子大学の大学院は煙突方式と呼ばれる、学部での学科やコースの構成がそのまま大学院につながる形になっています。つまり、基本的には修士課程は学部での学びが持ち上がってグレードアップしている、というのが奈良女子大学の大学院の構成です。その意味では、大学院の人間科学専攻の特色は学部と重なっています。人間科学専攻は学部と同様に、教育学・人間学コースと心理学コースで構成されています。では、そもそも「人間科学」とはどのような研究をする学問なのでしょう。人間科学専攻は「人間」を研究対象にしているわけですが、もともと、考えてみると文学部で研究したり学んだりしていることというのは全て人間に関わることでですね。歴史にしても社会にしても、文学や言語にしても、全て人間が作り出す物です。そう考えると、文学部そのものが人間諸学の学部といえますが、特にその中でも、「人間」を直接的に問う、ということが人間科学専攻の研究や学びの特色であると思います。

**Q** 人間科学専攻ではどのようなことを学ぶことができますか？

「人間」について、現実に即してかつ原理的に学ぶ」というのが人間科学専攻の学びの基本です。その際、学部の時とはまず人間についてできるだけ広く、多面的に学んでもらいたいと考えていますが、大学院に進学してからは、学部で学んだことから焦点を絞り、かつ二人の先生にいわば弟子入りするように付いて、その先生の研究方法論を習得しながら

**Q** 修了後の進路について教えてください。

他の学部・学科と比べて、学部の卒業生と大学院の修了生の就職先にそれほど大きな違いがない、というのがある意味特徴かもしれません。ただし心理職に関しては、学部卒業段階では心理の専門職に就くことができないため、大学院に進学して資格を取らなければなりません。ですから、心理の専門職は大学院を修了したからこそその特徴的な就職先です。また、大学院で教職の専修免許を取得して教員になる人はコンスタントにいます。今、学校現場では、専修免許を持つ専門性の高い教員がいつそう求められています。それ以外では、人間科学専攻の修了生の就職先は非常にバラエティーに富んでいます。大学院で学んだこと、研究したこと、を活かして就職する人もいれば、専門とは関係なしに様々な職種に就職する人もいます。それから、数は多くはありませんが博士課程に進学して研究者になつていく人もいます。

**Q** 人間科学専攻を目指す学生にメッセージをお願いします。

人間科学専攻では一人ひとりの「問い」を大切にしています。その問いから、何をどのように探究すればいいのか、と考える過程で、それぞれの研究が立ち上がっていきます。自由にテーマを設定して学ぶことができる一方で、探究の方法は一人ひとりに委ねられているため、最終的には自分自身で問いの答

ら、より深く掘り下げた探究を行うことを目指しています。

また、私が所属する教育学・人間学コースのモットーは「人間の存在と生成を問う」ということです。「存在」というのは「〜がある」「〜である」ということです。人間がある、人間である、ということですが、それに対して「生成」とは「〜になる」ということです。人間を問うときに大切な視点の二つは、人間だけが人間になる存在だ、ということです。人間以外の動物は産まれた時からその行動や生き方は本能によって規定されています。しかし、人間だけは自分自身を「人間として」創っていく存在であり、教育によって人間になっていく存在です。このように「生成」する存在として人間を問う、という点に人間科学専攻の研究と学びの一つの特色があります。

**Q** どのような学生に人間科学専攻に進学してもらいたいと思いますか？

まずは「人間」に対して深い関心を持つというところが大切です。人間への「問い」といってもいいでしょう。そしてその「問い」から出発して専門的に学び、それを活かして社会に貢献していきたい、という志を持った人に進学してほしいと考えています。人間の生き方や生活に直接的に働きかけて、ケアをしたり育てたり、といった職業に就くための専門的な学びをする、ということですが、それが人間科学専攻で学ぶことの一つの大切な意味であり、そういう

えを掴み取っていかなければなりません。その意味で人間科学専攻は、自由であると同時に厳しいところでもあります。人間についての探究は、こうすれば正解だということが、良くも悪くも、ありません。だからこそ、多様な関心を持つ人を受け入れる懐の深さがあるのが人間科学専攻の特徴です。「人間」について問う自由と厳しさを私たちが共に楽しむことのできる人たちに、人間科学専攻に来ていただければ嬉しい、と思つています。

### 学生記者の声



今回は文学部人間科学科の大学院についてお話を伺いました。私自身も人間科学科に在籍しており、人間について様々な角度から見つめ直していますが、学べば学ぶほどに奥が深い学問です。この記事から人間科学専攻の魅力を感じていただけたら嬉しいです。

山本 萌 (やまもと めぐみ)  
文学部人間科学科3年生  
出身校: 聖心学園中等教育学校 (奈良県)

大学院へ  
ようこそ!

## 食物栄養学専攻



生活環境学部  
食物栄養学科  
教授

菊崎 泰枝

きくさき ひろえ

再吸収されることがわかっています。このように、摂取された成分がどのように人の身体に影響を与えるのか、というメカニズムを研究するのが栄養学です。

**Q** では、マクロな視点からの研究とはどういったものですか

マクロな視点からの研究は、集団としての人を対象とするものです。例えば「奈良県の高齢者」などですね。これを「公衆栄養学的研究」といいます。

具体的には、一人ひとりの食生活状況や栄養状態を調査し、生活習慣病の有無などの関連を、統計学の手法を用いて考察していきます。ある人の栄養状態を把握するためには、その人が一日に何をどれだけ食べているか知る必要があります。しかし、一日に食べるものをすべて漏れなく量つてもらう、というのはとても大きな負担になりますよね。そこで、



高速液体クロマトグラフ  
〔固定相(ゲル)と移動相(溶媒)を用いて成分を分離分析する機器〕

簡便かつ正確な食事評価システムの開発というものも、公衆栄養学における主要な研究テーマの一つになってきます。

**Q** 食物栄養学分野での具体的な研究例をおきかせください

例えば、妊娠期間における葉酸の摂取不足が胎児に影響を与えることはよく知られていますが、それが子どもへの成長過程にはどのような影響を及ぼすのか研究されている方がいらつしゃいます。また、「耐性菌」という、抗生物質でも抑えることのできない細菌の発生メカニズムを解明することで、食品衛生の改善を目指す研究もあります。他にも、抗アレルギーや抗肥満、抗がん作用をもつ成分の研究や、キノコの新品種の開発を目指した研究など、さまざまです。最近では、「栄養」と「運動」をリンクさせて健康を考える、というアプローチも盛んになってきています。

**Q** 修士生の進路について教えてください

まず一つは、食品メーカーへの就職です。修士課程修士生では、商品開発の研究や品質管理、分析に携わることが多いようです。また、専修免許を得て栄養教諭になったり、「食品衛生監視員」になったりする修士生もいます。もちろん、博士後期課程に進んで大学教授を目指す場合もあります。

また、これは学部の話になりますが、奈良女子大学は「管理栄養士養成施設」に指定されており、必要単位の取得に加えて臨床実習を行うことで、管理栄養士の国家試験の受験資格が得られます。そのため、病院や保健センター、自治体の福祉関係の部署などで管理栄養士として働く卒業生もいます。

**Q** 研究者を目指す上で、奈良女子大学の魅力は何だと思われませんか

まずは、女子大学だけあって、女性のライフスタイルを見据えた制度が整備されていることです。結婚や出産などのライフイベントを控えた若い人たちにとても、研究者を目指しやすい環境なのではないでしょうか。

そもそも雰囲気自体にも、女性研究者への理解があると思います。実際、食物栄養学専攻には、産休をとっている助教の方がいらつしゃるのですが、まわりにもフォローしているという雰囲気がありますね。身近な存在である助教の方が輝いていると、学生にとっても良い目標になるので、研究の実績を積み、ステップアップしていけるよう後押しを心がけています。

また、長い伝統をもつ大学ですので、ロールモデルとなるような卒業生が大勢いらつしゃいます。例えば食物栄養学科では、有志の卒業生が集まって、自主的に勉強会を開いています。現役の学生にとっては、様々な場で活躍している先輩たちのお話を聞き、自分の将来を考える良い機会になっています。これからの若い世代との交流を続けてほしいと思います。

**Q** 食物栄養学では、何をどのように研究するのですか

「食」「栄養」「健康」に関することを、マイクロ、マクロそれぞれ視点から研究する学問です。

まずマイクロの視点からの研究についてお話します。食品というのは、つきつめれば、様々な化学物質の複合体です。ですので、食品を構成しているこれらの成分の、まだ知られて

さらに、学部で管理栄養士の資格を取得した上で、修士課程を修了すると、「管理栄養士養成施設」の助手になる道が開けます。この助手のポストには任期がありますが、その間に研究実績を積み重ね、働きながら博士号を取得することで、講師以上を目指すこともできます。管理栄養士の資格をもって大学院に進学する人には、ぜひこのように教える立場としても活躍してほしいなど期待しています。



**Q** 修士生はさまざまな場で専門知識を生かして活躍されているようですが、学生の間から社会とつながる機会がありますか

最近の傾向として、企業と大学の共同研究が増えています。学会などでの発表をきっかけに企業の方から研究依頼を受けることも多いのですが、そのような時には、学生にも研究に参加してもらつようにしています。企業の方への結果報告を学生が行つこともありますし、学生にとつても非常に良い経験になっていると思います。

**Q** 最後に、食物栄養学専攻を目指す学生へメッセージをお願いします

研究は、自分で計画を立て、それを実行し、得られた結果を基に考察をする、という一連の過程で成り立つものです。卒論研究は学生さんにとって初めての研究になるので、教員と一緒に進んでいきます。修士でももちろん教員と一緒に進んでいきますが、主体性のハート



いらないような性質や機能性を明らかにすることを目指す研究分野があります。食品そのものにある成分が含まれていたとして、実際には私たちは、調理や保存、加工を経てそれらの食品を摂取しますよね。もともとどの食品に含まれていた成分やその機能は、調理、保存、加工によつて変化を受けるのか受けられないのか。変化するならばどう変わるのか。これらを明らかにするのが、摂取される前の食品を対象とする科学です。

一方で、摂取後の科学、つまり栄養学というものがあります。ある食品を食べると、そこに含まれる成分は消化、吸収、代謝されます。ただ、私たちの身体はすべての成分を吸収するわけではなく、吸収されずに排泄される成分は、腸内細菌のもつ酵素によつて分解され、大腸で

テーマをあげていくのが大学院という場になります。大学院での研究を通して身に付けることができる、問題解決のプロセスを自分自身で推進する力は、将来どのような道に進んだとしても、必ず役に立つでしょう。

まだ解明されていない課題を追求するわけなので、うまくいくこともあれば、そうでないことも当然ありますが、学生のみならずには、挑戦心、好奇心、探究心を持ち続けてほしいと思います。そして、食に関する問題を、冷静に科学的に見つめ、分析する事を通して、自ら問題を解決する能力を養つてほしいと願っています。

### 学生記者の声



先生のお話からは、これから研究者を目指す人々を応援したい、という強い気持ちが伝わってきました。日常のなかにある「食」に改めて目を向け、食物栄養学専攻で学ぶことに興味をもって頂くきっかけになれば嬉しいです。

高田 桃子(たかだ ももこ)  
人間文化研究科博士前期課程  
言語文化専攻1回生  
出身校:奈良女子大学附属中等教育学校



Zdanowicz Karolina  
(ズダノヴィチ カロリナ)  
出身国:ポーランド  
生活環境学部  
日本語・日本文化研修留学生  
(国費外国人留学生)  
留学期間:2018年10月~  
2019年8月

Q 奈良女子大学では何を学ばれていますか?

主に視覚文化とジェンダーに関する授業を受けています。法律や政治から、美術やメディアまで、社会における様々な性別の理解を深めることに心がけています。研究分野は映画なので、特にイメージの捉え方をさらに身につけたいと考えています。1年間を通して自分の視野を広げ、貴重な勉強になったと思います。

Q 日本に興味をもったきっかけは?

外国の若者にとって一番接しやすいのは、やはり日本の若者文化です。私も子供のころから色々なアニメを見たり、マンガを読んだりし、特にビデオゲームが一番好きで、ファイナルファンタジーの大ファンです! このような、日本文化を楽しむ時、日本語がわからないと、翻訳に頼るしかないのですが、そうすると、選択肢が限られるので、好きな作品を原語で知りたと思うようになり、日本語を身につけようと決心し、アダム・ミツツキエヴィチ大学日本語専攻科に入りました。

Q 日本で一番驚いたことは?

電車が遅れないことです。ポーランドでは電車が1時間か2時間など遅れるのは普通なことで、日本の電車には驚かされます。帰国してから、ポーランド人のみんなにも伝えたいです。

Q 奈良女子大学の印象を教えてください!

とても綺麗なところだと思います。初めて見た時に、「ああ、ここは童話のよう!」と思いました。食堂は美味しいし、店員さんはみんなとても優しいです。穏やかな雰囲気本当に居心地がいいキャンパスだと思います。

Q 帰国後の目標は?

帰国後は大学院の二年生になり、留学中に集めた資料を元に、修論を書くことになります。できたら、さらに進学したいと考えているので、またいつか日本に留学する機会があれば、本当に嬉しいと思います。

# Broaden Your Horizons!



奈良女生に留学体験についてお伺いしました。



梶河 美紀(かじかわ みき)  
交換留学トリアー大学(ドイツ)  
文学部人文社会学科  
社会情報学コース4回生  
留学期間:2018年9月~  
2019年2月

Q 現地で学んだことは?

現地では、主に「ドイツ語」と「移民」について学びました。トリアー大学には多くの留学生が在籍しているので、語学を学ぶ環境が整っていると思います。多くの選択肢の中から、自分に合ったまたは自分の取りたい授業を選択することが可能です。また私は、特にドイツの移民問題について興味があったため、現地でそれに関する授業も受講しました。予習などが大変な時もありましたが、授業の中で現地の学生の移民に対する意見や考えを聞くことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

Q ドイツに留学しようと思ったきっかけは?

ドイツ(語)に興味を持つようになったきっかけは、大学でのドイツ語の授業です。第二外国語として選択したドイツ語の授業を通じて、ドイツに行ってみようという気持ちが強くなり、1回生の9月に初めてドイツに1か月間の語学留学をしました。それをきっかけに、ドイツに対す

Schedule

2017年(2回生)

2018年(3回生)

7月 ドイツ語学習・情報収集	9月 交換留学申請	11月 面接	4月 留学先大学と連絡開始 (メール)	5月 航空券購入	9月 渡独	10月 オリエンテーション、 授業開始
-------------------	--------------	-----------	---------------------------	-------------	----------	---------------------------

る興味・関心はさらに強くなり、2回生の8月にも1か月間の語学留学を行いました。この2回の留学を通じて、ぜひドイツに住み、現地で勉強してみたいと思うようになったため交換留学を決意しました。

Q ドイツで一番の発見は?

自分がいかに狭い世界に住んでいるかということです。ドイツには、移民の方も含め、様々な人種の方が生活しています。国民のほとんどが「日本人」である日本に住んでいる私には、その環境で生活する毎日がとても刺激的で充実していました。様々な文化や価値観を持っている人と共に生活することで、自分が「当たり前」と思っていたことが実際はそうでないことに気付いたり、自分が持っていない視点を得られたりしました。それらの経験を通じて、自分の世界が大きく広がったと感じています。

Q 今後の目標は?

より多様な価値観や考え方に触れ、自分の世界・視野を広げていくことです。そのためのツールの1つが語学だと考えています。言葉(言語)を介して、様々な人と話し、それを通じて自分の世界を広げていきたいです。そのためにドイツ語はもちろん、これから様々な言語にも挑戦していきたいです。



ゼミ旅行@瀬戸内

ボランティア@砂浜美術館  
館「潮風のキルト展」

雨上がりの奈良女子大学

星空上映会@平城宮跡

## 奈良女子大学国際空間CotoQueオープン

2019年4月5日、国際交流や異文化理解を目的としたイベントを定期的実施する場として「奈良女子大学国際空間CotoQue(ことく)」をオープンしました。CotoQueのキーワードは、「グローバル」「多言語」「異文化理解」そして何よりも「楽しく!」。前期はアメリカやイギリス、ベトナムなど、様々な国から奈良女子大学に来ている留学生が中心となり、英語や中国語のフリートーク、ベトナム語講座や英語での料理教室を試験的に実施した他、日本人と留学生と一緒に日本文化を学ぶという目的で、茶道教室や華道教室などを行いました。また、イベント以外の時間も外国語ニュース映像等を流し、学内でここにきたら国際的なもの(言語・文化)に触れるという場にしています。後期からは、週に2~3回、定期的にイベントを開催する予定です。学生からの持ち込み企画も大歓迎。楽しみながら、国際交流ができる空間を皆で作っていきましょう。



スペインの友人との  
イタリア旅行

雪の降るキャンパス

クリスマスマーケット

パリ旅行

# Club/Circle # NWU

学生記者

中根 明日香(なかね あすか)  
理学部数物科学科4回生  
出身校:四天王寺高等学校(大阪府)

榎 千晴(とが ちはる)  
文学部1回生  
出身校:鳥取県立松江北高等学校



#Fairtrade #地域から世界へ  
#人と関わる活動を

## HUA (非公認サークル) メンバー数:14人

活動内容:奈良県内の国際イベントや地域イベントなどに参加し、大学生の立場から国際協力活動を行う。

◎奈良女子大学に在籍からこできる国際協力は何か?

毎年開かれるイベント「アースデイ」への参加や「陶器市」は、優しい土地柄の奈良だからこできる活動。また、「Table For Twoフェア」は、奈良女子大学の大学生協とのコラボで、学生の皆さんからの評判も良いです。

◎活動においてやりがいを感じる瞬間を教えてください。

学外の方と交流して今まで知らなかったことを知ったとき、逆にこちらが知っていることを相手に伝えて知ってもらったときは、大学生という立場と社会のつながりを確認できてやりがいを感じます。

♡お気に入り



#空を飛ぶ経験 #雲の上の世界  
#上空からの綺麗な景色

## 気球部 (公認サークル) メンバー数:約30人

活動内容:気球のフライトを実施。また、気球の大会に参加。

◎気球部でしかできない体験は?

直に風を感じて、自分が空を飛んでいるという感覚を味わえることが楽しいと思います。

◎今までで1番感動したことは?

「雲海」を見られたことです。雲海は山の上などで条件が整っていないと見られないものなのですが、空の青と雲の白が二分する世界を自分の目で見ることができ、とても綺麗で感動しました。

◎活動中気をつけていることを教えてください!

気球をとばす時は、必ず車で気球を追いかけます。これは気球に何かあった時、迅速に対応するためです。そのため車と気球はすぐに連絡できるようにしています。

♡お気に入り



#奈良の人と学生の架け橋 #君が好きになるなら #第12号は10月発行

## 学生フリーペーパー団体 コトノハ (非公認サークル) メンバー数:23人

活動内容:「奈良の人と学生をつなげる」を理念に掲げ、奈良県的女子大生に向けた情報をフリーペーパーの形で毎年春と秋に発行。

◎「コトノハ」というサークル名の由来を教えてください。

奈良の良さを伝える「言の葉」と、歴史ある奈良を表す「古都」というふたつの言葉が名前の由来です。「古都」の魅力を学生の「言葉」で伝えるという意味が込められています。

◎コトノハさんの視点から見た奈良の魅力は何ですか?

おしゃれなカフェなど新しいものと、荘厳なお寺など古いものが共存しているところがおもしろいと思います。奈良は、新しいものを取り入れる姿勢と古いものを大切にする姿勢の両方を持つ魅力的な街です。

♡お気に入り

## あぐりぶ (非公認サークル) メンバー数:27人

活動内容:奈良県内で農業作業の補助のボランティア活動を実施。他にも、環境展というイベントでパネル展示を出展。

◎活動の中で楽しかったエピソードを挙げるとしたら?

高地にある茶畑で鎌を使って雑草を刈っていた時に、傾斜面の広がりの中から奈良市内の景色が一望できたことがあり、一連の作業を通して農業というものに携われる楽しさや喜びを味わいました。

◎何故「あぐりぶ」を立ち上げられたのですか?

活動休止になっていた「manao」というボランティアサークルを、先輩方が「食」や「農業」について興味を持っていたという事もあり、本格的な農業サークルとしてリニューアルしました。

◎今取り組んでいる活動やこれからやってみたい活動を教えてください!

秋の学祭(恋都祭)で大和茶の茶葉を使用したクッキーを販売する予定です。農家の方と協力して奈良に関する映画を上映するという企画もあり、今後実現に向けて動いていきたいです。

♡お気に入り



#生産者の目線から #おいしい空気 #本格的なそば打ち体験ができたのも良い思い出



## ダッカ大学(バングラデシュ)との協定締結から今後の奈良女の国際交流について

◎奈良女子大学はダッカ大学と協定を結びましたが、その理由や、本学に有意義な点について教えてください。



海外に協定校を持つ根本には、国際化を進め様々な国との教員や学生の交流を増やすという本学の基本理念に基づいています。その中でダッカ大学のあるバングラデシュは、近年の経済発展がめざましく、数十年後には現在の中国やベトナムと同様の発展を遂げているだろうという将来性のある国です。そういった国の大学と協定を結び、本学で学んだ留学生が学位取得後に母国に戻り、教員などとして活躍し、若い世代がそれを見て本学で学びたいと思ってくれるような長期的交流が発展することを期待しています。

◎海外の大学との学術交流・学生交流では、具体的にどのようなことを行なっているのでしょうか。

一言で言って留学生の受入です。ダッカ大学からは毎年1名の修士課程の留学生を受け入れる特待留学生制度を設け、今年度最初の特待留学生が入学しました。その他、短期集中講義を行うさくらサイエンスプランに申請し、チッタゴン大学(バングラデシュ)からは2017年度から3年連続で毎年10名の学生を受入れました。さくらサイエンスプランには本学学生も参加し、授業後にはバングラデシュから持ち寄ったスパイスを使った料理を作ったりし、学術以外の面でも楽しむことも忘れません。海外留学生がごく普通の存在として本学で学ぶこと自体が日本人学生にとっても大きな刺激となると考えます。

◎今後の海外協定校との連携や国際交流に関する思いを聞かせてください。

海外協定校を増やし、双方において複数の研究分野で複数の教員が学術面の繋がりを持つことが重要だと考えます。さらに、若い世代の学生たちには海外で学ぶことで、非常に大きな勢いで変わっていく世界を自分たちの目で見てきてほしい、という願いがあります。世界に目を向け、世界で通用する人材 = 世界中どこでも仕事ができる人間、になるべく、英語やそれ以外の外国語の知識も身につけてほしいと思います。



国際交流副センター長  
高須 夫悟(たかす ふうご)  
理学部化学生物環境学科 教授

学生記者  
松原 結花(まつばら ゆか)  
文学部言語文化学科3回生  
出身校:東京都立町田高等学校

## VOICE! ダッカ大学からの留学生にお話を聞きました!



Mowsumi Tahrim Jannat  
(モースミ タリム ジャンナト)  
出身国:バングラデシュ  
人間文化研究科博士前期課程  
化学生物環境学専攻1回生

◎日本(奈良女子大学)で学ぼうと思われたのはなぜですか?

子供のころから、私は高等教育を海外で受けたいと夢見ていました。ダッカ大学入学後、指導教員の先生が奈良女子大学について教えてください、特待留学生へ申請しました。夢が叶ったように感じました。このような貴重な機会を頂き本当に感謝しています。

◎研究テーマは何ですか?

私は現在、「バングラデシュの大気中メタン」についての研究を進めています。コミラ(バングラデシュ東部の都市)での地上観測と衛星データを活用し、メタン排出推定を行うことが本研究の目的です。解析結果をJAMSTEC(海洋研究開発機構)で開発されたモデルシミュレーションと比較することで、本研究が南アジアにおけるメタン排出の詳細な理解に貢献できることを目指しています。

◎留学して得られるものは何だと思いますか?

留学によって学生は外国で勉強し、その魅力や文化を吸収する機会を得ますが、留学によって得られる事はまだまだあります。

■バングラデシュでは海外で学位をとると名誉なことです!

■第2外国語だけでなく第3外国語を学ぶ機会がある!  
私は今英語と日本語を楽しく学んでいます。奈良女子大学では留学生向けに日本語の授業を開講していて良かったです!

■新しい教育システムを経験できる!

母国と異なる新しい教育システムを経験することで、その国の人々・文化・伝統を理解する事ができます。



# 佐保会 各支部リレー便り

## 徳島支部



(1982年)  
理学部生物学科卒業  
小林知子

徳島支部では毎年8月に支部総会を開いています。参加者は十人前後と、こじんまりしていますが、毎年なごやかな雰囲気です。母校の話題や、自身の日頃の活動など時間を忘れて和気藹々とした時間を過ごしています。

また、春には支部だよりを発行し、本部総会の報告をはじめ、支部総会の感想、会員からの投稿などを掲載しています。支部だよりが会員の集う場になればと思います。アンケート用紙を同封して意見や感想などを募集しています。

「久しぶりに佐保会徳島支部総会に出席させていただき、懐かしい方や初めての方にお会いでき、優しい雰囲気の中で、出席されたお一人お一人の素敵な笑顔とお話が全てに残り感動いたしました。」

「久しぶりに出席させていただいたので、参加する前は少し緊張していましたが、実際に会員の方々に会いししたら、以前参加した時と変わらないなごやかな雰囲気、ほっといたしました。大先輩にあたる方々のいろいろな話を聴かせていただいて、自分自身の生活を見直すきっかけにもなりました。」

支部総会の幹事は5年ごとの当番として、当日の受付・集金・司会進行を行うことになっています。近年参加者がだんだんと少なくなっており、



2019年徳島支部総会

一人でも多くの方に参加してもらえたらと思っています。

また、メーリングリスト会員を募集し、徳島支部総会の日程の相談や連絡または支部だよりの原稿募集などに活用しています。これからも支部の活動が会員の皆さんに届くように努力していきたいと思っています。

## 東京支部



(1977年)  
理学部化学科卒業  
小出律子

1921年(大正10年)11月に発足した東京支部は、2年後の2021年秋に百周年を迎えます。現在、記念祝賀会の開催と「東京支部百年史」の編纂、発行に取り組んでいます。

東京支部の活動は、毎年5月の総会から始まります。今年の総会時の会員数は、1013名。役員会は支部運営全般を担当します。厚生文化委員会は、会員相互の親睦や教養を深めるために、見学会や公開講演会、歩こう会の開催や講座や同好会などの運営管理を担当しています。講座の中では、ERS Saho (Tokyo) Economist Reader's Societyが一人人気の講座です。

講師は、河合秀和学習院名譽教授(1956年卒の河合久子さんのご主人です)で、イギリスの雑誌「エコノミスト」から今の世界情勢を鑑み、注目すべき記事を講師の河合先生が2-3件ピックアップして進められます。そして、「ネットワークさほは、ZOOMS」を発行して、職業・年齢を越えた会員の交流活動を図り、また、就職懇談会では、学生と学生が希望する業種のOGアドバイザーとの懇談の機会を提供しています。その他にも、新卒およびそれに近い若い世代の支部会員が対象のわかくさ交流会の開催や65歳以上の会員が集まりテーマに沿って意見交換するネットワークさほシニア「八重の会」など、多彩な活動を行っています。支部会員の皆様には、年2回、東京佐保会報を発行し、活動報告やお知らせをしています。また、ホームページでもご覧いただけます。(佐保会東



2019年6月5日三鷹天文台見学会

京支部E.Phipp./sahokai.tokyo/) 支部所属の著名な卒業生としては、  
●黒川伊保子さん(1983年理学部物理学科卒業、人工知能研究者、エッセイスト)  
●辛島美登里さん(1985年家政学部卒、シンガーソングライター、作曲家)  
がいっぱいいます。

お2人には、総会時の講演会で講師をお願いした他、委員をしていただき、講演会にも参加されています。

佐保会東京会館は、佐保会員皆様の財産です。最寄り駅から徒歩5分の便利な場所にあり、東京にいらした折の同期のお仲間との集まりなどの場として活用いただければと思います。使用案内は、支部ホームページをご覧ください。

## 奈良女子大学なでしこ基金

「創立百周年記念事業特定基金」へのご協力ありがとうございます



奈良女子大学は、2019年5月に創立百周年を迎えました。

2018年6月から設けました「奈良女子大学なでしこ基金創立百周年記念事業特定基金」では、皆様方のご理解のもと2019年5月末までの間に、49,743千円のご寄附をいただきました。温かいご支援とご協力に心から感謝申し上げます。日本各地ならびに世界から集う学生に対し、安全で安心できる生活拠点を提供することは、本学の大きな使命といえますので、学生寮の新設等に使用させていただきます。

「なでしこ基金」へのご寄附に際しましては、本学ホームページより、クレジットカード決済もご利用いただけます。また、皆様からご提供いただきました書籍・DVD等の買取金額を本学がご寄附として受領する仕組みである「古本募金」も引き続き受け付けて

おります。今後も、学生に質の高い修学環境を提供すべく努力してまいりますので、引き続き、ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

## Campus Topics

### ■ 国立大学法人奈良教育大学と「国立大学法人奈良」設立に向けて合意書調印式を実施

#### 奈良設立に関する合意書調印式



握手を交わす奈良教育大学の加藤学長(左)と本学の今岡学長(右)

2019年6月28日、国立大学法人奈良女子大学と国立大学法人奈良教育大学は、一法人二大学化の「国立大学法人奈良」設立に向けて合意書調印式を本学にて行いました。

この合意をもとに、経営資源と合わせて教育及び研究資源も総合的、効率的に運用し、それぞれの強み・特色を活かし、奈良の地で社会の要請に応える人材育成を図ることを目指します。

同日行われた記者発表において、本学の今岡学長は「経営面でスリム化を図るだけでなく、学生への魅力もアップすることができる」と強調、奈良教育大学の加藤学長は「法人統合により大学を強化し、奈良にはこの大学がなくてはならない存在となるように頑張っていきたい」と両学長が新法人設立に向けて意気込みを示しました。

### ■ バスケットボールのフリースロー成功率に関する要因を科学的に証明



研究結果を発表する本学中田大貴准教授



フリースローを実演するパンビジャス奈良の横江豊選手

2019年5月27日、「バスケットボールのフリースロー成功率に関する要因(フリースローのコツ)」について、生活環境学部心身健康学科の中田大貴准教授よりプレス発表がありました。本研究結果は、日本体力医学会の国際誌である「Journal of Physical Fitness and Sports Medicine」のオンライン版にも5月18日に掲載されています。発表には記者の皆様他、奈良のプロバスケットボールチームである「パンビジャス奈良」の選手の方も実演下さいました。

### ■ 文学部のリカレント講座



当日の様子

文学部では、今年度、初めての試みとして、奈良女子大学生の女性保護者または女性ご家族の方を対象としたリカレント教育講座を2019年6月15日に開催しました。今年度のテーマは「ジェンダーで読む物語」、文学部言語文化学科の高岡尚子教授が講師を務めました。

1時限目は講義、2時限目は5名ずつのミニゼミに分かれ、ディスカッション中心の学びを体験していただきました。講座では、誰もが知っている「赤ずきん」の話を素材に、ペロー版とグリム童話版の違いや、そこに現れたジェンダー規範などについて、活発な討論がなされました。ミニゼミの討論では、高岡教授のジェンダー言語文化演習を履修していた学生がアシスタントとして活躍しました。なお、本講座はweb上での申し込みとしましたが、定員の40名が一週間満員となる程の大盛況でした。是非またの機会にご参加ください。

### ■ JR京都駅西口のデジタルサイネージに本学の広告掲載を開始

2019年8月1日より、JR京都駅のデジタルサイネージに本学の広告が流れております。より多くの方に本学の魅力をお伝えできればと思います。



# あの頃の奈良女へタイムスリップ!!

## =本学自慢の名物教授 第3回 丹羽雅子編=



### プロフィール

1933年	奈良県北葛城郡新庄町に生まれる
1952年	奈良女子大学附属高等学校を卒業
1956年	奈良女子大学家政学部被服学科を卒業
1957年	奈良女子大学家政学専攻科修了
1958年	奈良女子大学家政学部専攻生 修了
1958年	奈良女子大学家政学部非常勤講師となる
1961年	大阪信愛女学院短期大学講師となる
1961年	奈良女子大学家政学部助手となる
1968年	京都大学工学博士の学位を授与される
1969年	奈良女子大学家政学部助教授となる
1978年	奈良女子大学家政学部教授となる
1995年	LIBEREC 工科大学名誉教授博士号の称号を授与される
1997年	奈良女子大学学長となる
2002年	新疆大学名誉教授の称号を授与される
2003年	奈良女子大学名誉教授の称号を授与される
2019年	逝去（享年 87）天皇陛下より正四位を拝受

### 受賞歴

日本繊維機械学会賞論文賞 (1968, 1971, 2003年)
日本繊維機械学会賞記念賞 (1973年)
日本繊維機械学会賞技術賞 (1976, 1982年)
日本家政学会賞受賞 (1983年)
日本繊維製品消費科学会賞論文賞 (1985年)
モエヘネシー・ルイヴィトン国際科学賞 (フランス) (1989年)
Warner Memorial Medal (The Textile Institute) 国際学術賞 (英国) (1992年)
Award for Excellence International Journal of Clothing Science and Technology (Literati Club) 優秀論文賞 (英国) (1993年)
日本農学賞・読売農学賞 (1994年)
日本繊維製品消費科学会学会功績賞 (1994年)
日本熱物性学会論文賞 (1999年)
日本熱物性学会功労賞 (1999年)
紫綬褒章 (1999年)
日本繊維学会功績賞 (2000年)
日本家政学会功労賞 (2004年)
瑞宝重光賞 (2009年)
日本繊維機械学会賞功労賞 (2017年)



Warner Memorial Medal 授賞式にて

### ◆ 常に先を進まれた恩師丹羽先生との思い出

私は1980年に被服学科の4回生で、被服材料科学研究室に入りました。材料科学研究室では4回生8人がぎやかに過ごしていました。ちょうど丹羽先生の「布の風合い」に関する研究が盛んな時で、企業や海外からの研究者が多く来学され、研究が世界に広がって行くのを感じた時期です。丹羽先生は研究に対していつも完璧を求めました。当時は、発表スライド1枚作るのにも、ペンで手書きをし、写真を撮り、フィルムを現像、その後ブルー反転して完成。「この些細なミス、他の人は気が付かない」と私は思っても、発表練習でスライドの不備を先生に指摘され、また始めからやり直し。「あなたたち、こんなことも知らないの?」と何度も先生から高い声で指摘されるたびに、「まだ勉強不足?」と反省し、もっと勉強しなくては、と思ったものです。

私の転機は、修士2回生の時、京都国際会議場での英語の研究発表です。当時は学生の発表者はめずらしく、おまけに話しはじめてすぐにプロジェクターのランプ切れで、コーヒープレイク。もう一度初めから仕切り直して、なんとか終わり、でも質問の英語は聞き取れず。私に発表を促した先生の真意はわかりませんが、この国際会議がきっかけで、オーストラリアのニューサウスウェールズ大学に、リサーチアシスタントとして1年間、その後同大学の博士課程に進学しました。丹羽先生から頂いたこの機会は、新しいことに挑戦するときの原点となっています。

現在私は、京都工芸繊維大学でテキスタイルの感性評価と物性を中心に大学院生の教育、研究に携わる毎日です。留学生も多く、様々な国籍の学生に向き合います。いつも、丹羽先生の研究に対する一貫した厳しさ、ぎりぎりまで高い完成度を求める姿を目標に、「優しく、強く」と自分に言い聞かせています。丹羽先生が退官された後、同級生の興倉さん(滋賀大)、丹羽先生ご夫妻と一緒に、海外での出来事やご家族のことなどお話ししながら何度も会食をしました。その時、自分が学生の時には感じ取れなかった先生の優しい面をたくさん知る事ができました。これからも丹羽先生への尊敬と感謝の想いを胸に、教育・研究に精進したいと思っています。



「丹羽雅子先生瑞宝重光章ご受章をお祝いする会」  
2009年6月28日  
奈良ホテルに集まった丹羽研究室の卒業生

京都工芸繊維大学 教授 鈴柄 佐千子 (すぎら さちこ)  
昭和58年家政学研究科被服学専攻修了

### ◆ 女性研究者の地位獲得に尽力

丹羽先生は生涯にわたり、布の「風合い」研究の魁(さきがけ)として最先端を走ってこられました。その研究業績により日本熱物性学会論文賞をはじめ多数の賞を受賞され、さらには学術芸術上の発明改良創作に関する著明な功績により紫綬褒章を授与されました。活躍は国内にとどまらず中国の西北紡績工学院客員教授、チェコのLiberec工科大学名誉教授、英国のThe Textile Institute Fellowの称号を得るなど国際的にも高く評価されました。

また、本学学長に就任中は、女性研究者の地位向上にも積極的な働きかけを行い、国立大学における男女共同参画社会、特に大学への女性教員の活躍推進について努力されました。平成15年には文部科学省中央教育審議会「女性の多様なキャリアを支援するための懇談会」や国立大学協会(第3常置委員会)「男女共同参画社会に関するワーキンググループ」の座長として、立ち遅れた日本の実情を国際比較して指摘し、男女共同参画社会の実現のために大学の担うべき役割と責任について議論されました。

さらに、国立大学の女性教員が著しく少ないことやキャリアアップがスムーズでないことに焦点を当て、国立大学のカリキュラムにジェンダー研究を取り入れ、女性研究者の研究環境改善のために、出産・育児、介護の支援体制整備や、女性教員増加のためのポジティブアクションを採用し、目標達成の可視化のために女性教員数・比率を評価項目に組み込む具体的な解決策を取りまとめました。こうした改革は、日本学術会議女性会員の増員について、選出法の改正提案なども行っていきました。その長年にわたる多大な貢献に対して瑞宝重光章が叙勲されました。

一人の女性として真摯に研究に向き合い、のちに続く人材育成にも尽力されてこられた丹羽先生の精神は「余裕があれば、時間ギリギリまで研究を進めなさい」というものであり、これは教え子の方達に人生訓として受け継がれています。

中根 明日香(なかね あすか) 理学部数物科学科4回生  
出身校:四天王寺高等学校(大阪府)

